



編集・発行 山見妙勢能勢
山見妙勢能勢
部報
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

人として尊いもの

新實 信導

「人間として一番尊いものは徳である。だから、徳を高めなくてはいいかん。技術は教えることができるけれど、習うこともできる。けれども、徳は教えることも習うこともできない。自分で悟るしかない。」松下幸之助氏の有名な言葉である。

唐中期以後、歴代の皇帝や政治家の必読書とされ、日本には八〇〇年頃、遣唐使により伝えられたと考えられる。その後、天皇や公家、武家にも読まれ、北条政子がこれを和訳させ愛読し、徳川家康が印刷出版させたといわれている。

ところで、日蓮大聖人は『貞観政要』について「太宗文武皇帝の治政の功績は多大で、このような威徳はいまだかつてない。唐の堯帝、虞の舜帝、夏の禹王、殷の湯王（中略）などの、著名な仁徳の諸帝王といえども皆とてもおよばない」（『大田殿許御書』）と称讃されている。なお大聖人は『貞観政要』を五二紙にわたり書写されており、これ

を見てもいかに大切にされていたかが推測できる。

この『貞観政要』には、「故に知る、人の身を立つる、貴ぶ所の者は、惟だ徳行にあり。何ぞ必ずしも栄貴を論ずるを要せん」とあり、富貴など問題でなく、大切なのは徳行であり「品性」だと断じ、さらにまた自戒として「鏡があれば衣冠を正す。歴史を鏡とすれば世の興亡衰退を知り自ら

を正す。人を鏡とすれば善悪当否を知る。この三鏡で常に自らの過ちを正す」とが肝要であると説く。つまり三鏡の自戒を実践することが徳行であり、ここから大聖人は法華経こそが明鏡であると悟られ、法華経を実践することと徳行を得られると確信された。

「徳は教えることも習うこともできない」自分を律してこそ徳が具わるのだと。

《法華経に学ぶ現代》

遠塵

離垢して

諸法の

中に於て

法眼浄を

得たり

『妙莊嚴王本事品第二十七』

正しい道を選ぶには

世間の塵から遠ざかり

溜まった垢を摺りおとし

心も体も浄くして

まずはゆっくり深呼吸

そして見開く眼玉なら

映る世界はありのまま

答えも自ずと出るでしょう

【12月の主な行事】

★写経会

11日(日)11時

★月例祈願法要

15日(木)13時

★鷗様月例祭

22日(木)15時

【1月の行事予定】

☆正月歳始祈禱

1日～15日

※歳始祈禱申込受付中

※開運シールの授与

★書初め写経会

11日(日)11時

北辰閣2階にて金紙に写経初心者の方もどうぞ！

★月例祈願法要

15日(木)13時

願い事を書いた兜矢を献納

★鷗様月例祭

22日(木)15時

*お火焚祭りは2月11日です

*2月まで茶論はお休み

《送迎車のご案内》

能勢電鉄ケーブル・リフトは、

12月5日～3月17日運休（但し大晦日～1月3日、2月11日、3月5日は運転）御祈禱・

御回向等を受けられる方は能勢電鉄「妙見口」駅～妙見山上の間を能勢妙見山から送迎車を出します。事前予約が必要ですので妙見山事務所までご連絡下さい。

電話072-739-0329

今、今

宮本 観靖

今年も多くの書籍が話題となりましたが、その中で注目され、長く売れていた本の一つは「アドラー心理学」に関する本ではないでしょうか。

恥ずかしながら私は、アドラー心理学に関して名前からして「？」という状態でしたが、世界的には心理学と言えばフロイト、ユングと並ぶ三大巨頭の一人として、必ず言及される精神科医だということでした。

アドラーの心理学の特徴としてはフロイト等が提唱する「原因論」ではなく、「目的論」の立場をとる事です。

目的論とは、今の自分の言動は過去の出来事に原因を求めたのではなく、今の様にしたいという自分の目的があって、それに沿ったものだ、という事です。

例えば、引きこもりの人の場合で見ると、「不安」という原因があるから外に出られないのではなく、「外に出たくない」という目的のために不安という感情を作り出している、という事になるそうです。

つまり、この様にしたいという目的は、自分自身を作り出すものである以上、今の自分が良い状態であれ悪い状態であれ、それを選んだのは自分自身であり、誰のせいでもないという事です。

そして、逆に言えば今の状態に不満があったとしても、自分でそれを選んだならば、自分自身で再び良い方向に選び直すことも可能だという事です。

大事な事は「今、ここ」をどの様に決断して生きるかであり、そうする事で原因と考えていた過去も、結果としての未来も変わっていくことでしょう。

今月はいよいよ十二月、最後の月です。今年一年いかがだったでしょうか。今年の初めに立てた目標に届きましたか。

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

目標を定めないと、同じ場所足踏みしてただけになりかねませんし、かといって目標が遠すぎると気が続き途中であきらめてしまします。仏教でも、成仏という究極の目標に向かうためには小さい目標に向かって一歩ずつ歩んでいくことを説いています。師走に当たり、まずは今年を振り返り、大きな人生の目標と来年の目標を心静かに考えてみませんか。

暦のあれこれ

十千十二支を組み合わせた六十干支の中で、甲申(きのえさる)から癸巳(みずのとみ)までの十日間を十方暮(じっぽうくれ)といいます。この十日間は、五行(木火土金水)が例えば、水は火を消し、金は木を断つといった様に、一方の気が他方の気をやっつけてしまうという相克(そうこく)の関係が続く期間になっています。

この期間は天地の気が同じく相克してしまい、和合せず暗雲立ち込め、万事控えるべき厄日とされました。特に相談事、交渉事は慎むべきとされ、江戸時代には重要視されていた凶日でした。十方暮の語源は、全てが閉ざされた意味からとされていますが、何事も成就せず「途方に暮れる」事から、語呂合わせも兼ねて十方暮れと呼ばれた感もあるようです。

これは、仏様の教えとも通じているものです。過去にどの様な原因、因縁があるろうとも、今、この場で生きる事に真剣になることが大切な事です。過去も未来も関係なく、今自分が成すべき事、そして、自分だけでなく他の人の為に、何が出来るかを考え行動する。そこに幸せと喜びを感じられるようにしていくことが私達に必要な事ではないでしょうか。

俳 壇

(みのり)

初時雨笑顔絶やさぬ羅漢さま
法堂に雨かと紛ふ散る銀杏
干し大根脚を揃へて踊ること
大根の大切りとろり煮含めて
店頭に唇の並び急かされる